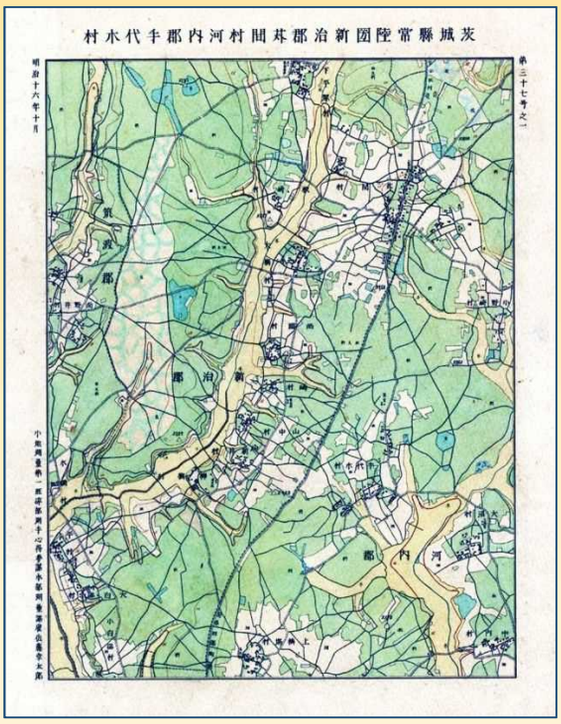
国の基本図の移り変わり

国土地理院が作成する地形図は、国土の基本図として位置付けられています。
明治の時代から現在まで、国の基本図は以下のように移り変わりました。

2万分1迅速測図原図

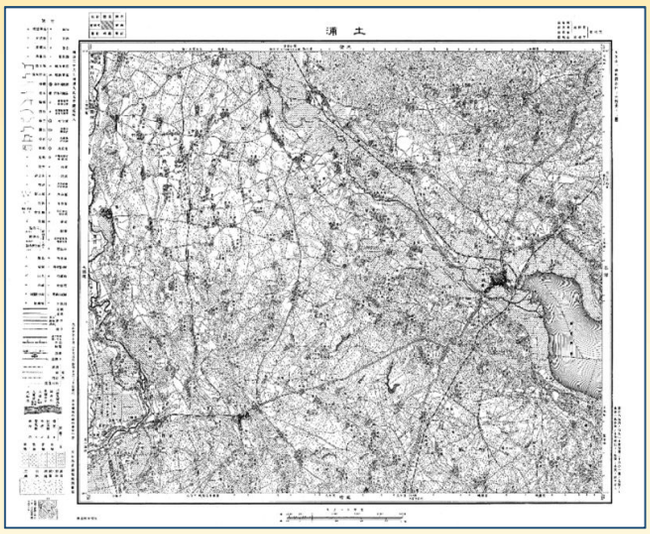


明治16年発行「苅間村手代木村」

明治13年～19年にかけて合計921枚が作成されました（関東平野ほぼ全域・房総半島及び神奈川県東部・大阪近辺及び名古屋近辺）。国の基本図として整備を始めましたが、財政難から明治23年に国の基本図の縮尺は5万分1へ変更されました。

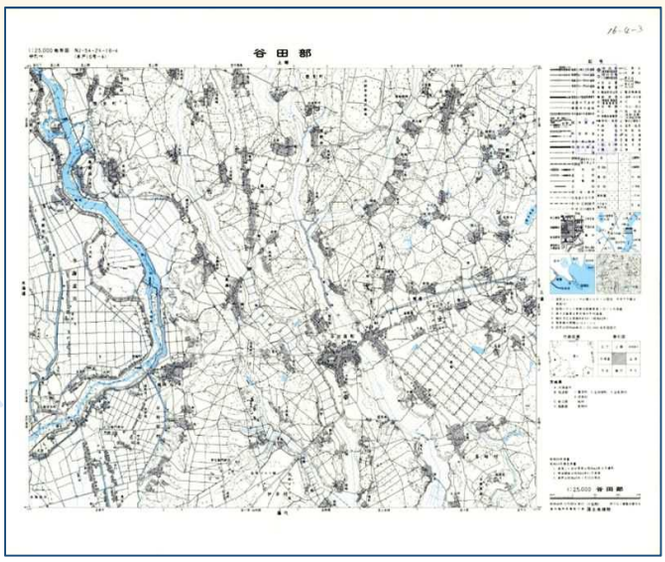
明治23年から整備が始まり大正13年に全国整備が完了しました。三角測量を用いて作成された実測図で1,291面で全国をカバーしています。現在は更新を行っていません。

5万分1地形図



大正１０年発行「土浦」

2万5千分1地形図（3色刷）

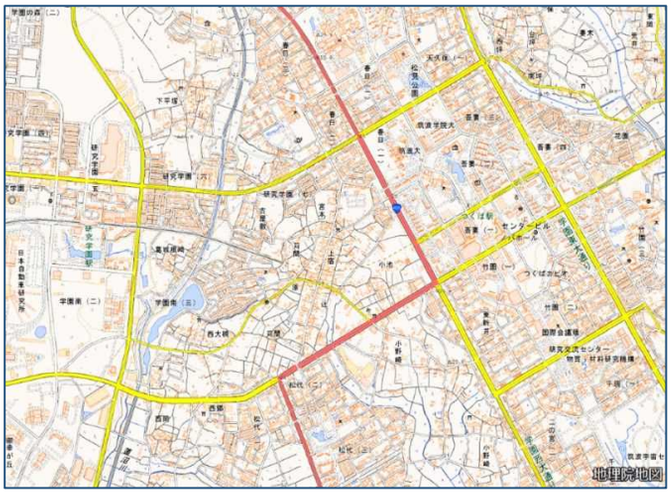


昭和46年発行「谷田部」

昭和39年の第二次基本測量長期計画から、国の基本図として本格的な整備が始まり、昭和58年に全国整備が完了しました。
全国整備されている一般図としては最も大縮尺の地図で、全国を4,420面でカバーしています。

平成21年度より整備された「電子国土基本図（データーベース）」を従来の２万５千分１地形図に変わり、国の基本図としました。
現在は、電子国土基本図から、2万5千分1地形図や電子地形図25000を作製しています。

電子国土基本図（地理院地図）



地理院地図「つくば駅周辺」（平成30年11月）